

# 令和5年度 第2回 国指定史跡東京湾要塞跡整備委員会 議事録（抄録）

日時 令和5年（2023年）11月13日（月）14時00分～15時45分

場所 消防局第3会議室

## 参加者

委員	後藤 治（委員長）	：工学院大学理事長 工学院大学総合研究所教授
	荒木良子	：市民公募
	大内田史郎	：工学院大学 建築学部建築デザイン学科教授
	小野田滋	：公益財団法人鉄道総合技術研究所 情報管理部 担当部長
	蒲谷衛一	：市民公募
	鈴木 淳	：東京大学大学院人文社会系研究科 教授
	松井敏也	：筑波大学 世界遺産専攻 保存科学 教授
オブザーバー	富永樹之	：神奈川県教育委員会 教育局生涯学習部文化遺産課副主幹
事務局	古谷久乃	（横須賀市教育委員会教育総務部長）
	柿原美奈、川本真由美、磯口健太郎	（横須賀市教育委員会教育総務部生涯学習課）
	千葉聡子	（建設部公園管理課係長）
	木村 健	（建設部公園建設課係長）

## 1. 開会

### 委員長挨拶

本日は猿島砲台跡の整備の優先順位・スケジュールについて審議いたします。

最近、猿島砲台跡・千代ヶ崎砲台跡のことを聞く機会が増えた実感がある。ますます親しまれる史跡となるよう、議論が活発になることを望みます。みなさまよろしく願いいたします。

## 2. 審議

### ①猿島の整備の優先順位について（資料1）

事務局から内容説明

○委員からの指摘事項。

後藤委員長：資料にある「史跡の保護と景観への配慮を行う」とある点について。史跡の保護と並列で景観への配慮を表記するのは難しいのではないか。

鈴木委員：史跡は「保護」で、景観は「配慮」と使い分けるように。猿島の周りをすべて人工物で固めてしまうというのは難しいと思うが、島の地形保存については優先順位を下げて考えているので、可能な範囲での配慮を行うという考え方でいかがか。史跡の本質的価値にかかわる景観、例えば切通にて支保工を両側に渡してしまうと、安全対策の工法として合理的ではあるが史跡の本質的価値に関わってくる。

後藤委員長：景観への配慮は必要だが、絶対ではない。優先順位はどちらか、ということ。

→事務局：「景観への配慮」を整備の最優先項目とする想定はしていないので、表現を再検討したい。

蒲谷委員：4位の島の地形保存について。猿島は各所で何年かに1回は崩れている現状が気になっている。

後藤委員長：優先順位第4位であっても史跡の本質的価値に関わるところに影響がでると、今後順位が一気にあがってくるということがあり得る。

## ②猿島の整備スケジュールについて（資料2）

事務局から内容説明

○委員からの指摘事項。

後藤委員長：資料の整備計画表は、ローマ数字にするなどして、（審議①の）優先順位を記載して必要性の説明を補強するとよい。

鈴木委員：第二砲台弾薬庫について。ひどく損傷しているという事務局説明があったが、昭和初年に化学兵器実験を行った記録がある。それと合致する場所がどこかわからないが、ほかにそのような場所はないので、この弾薬庫だろうと推測する。陸軍から海軍に移管し、海軍が使用するようになり、その際に実験に使用したという歴史がある。当初の姿に戻すのではなく、崩落防止策であるという点をしっかりと、爆破された痕跡が要塞の長期にわたっての使われ方を示すということを忘れないでほしい。崩れてしまうわけにはいかないなので、対策を行うことは必要だが、煉瓦の壁をきれいに塗ってしまったりすることがないように。

大内田委員：日蓮洞窟は、設計自体も先に送っているが、例えば設計だけ先にやっておくことを考えないのか。例えば令和7年度のスケジュールを見るとやや余裕があるように見える。ここで設計だけ入れておくとか考えないのか。

→事務局：日蓮洞窟についてはもう少し工法と実現可能性を検討したい。概算工事費の想定が大きく変わる見込みも生じている。

後藤委員長：このスケジュール自体には問題ないが、近年は異常気象が相次ぎ、災害レベルとなっている。異常時の現状変更は文化庁に届け出ずともよく、管理団体の判断で事後報告として構わない。非常災害時に市で単独でやる際の体制というのを考えておいたほうがよい。

松井委員：市では、猿島全体の損傷箇所や進行具合をマップなどにして把握しているか。

→事務局：全体マップは特に準備していない。

松井委員：海外では緊急時にどこを重点的にみるかなどオペレーションの指針がある。すべて網羅しようとするのが難しいので、ハイリスクな場所や近年変位が進む場所などを抽出しておくとうい。

→事務局：公園部局と相談して検討する。

## 3. 報告

### ①令和5年度補助事業の変更について（資料3）

事務局から内容説明

○委員からの指摘事項。

荒木委員：笠石を外すとのことだったが、擁壁の強度には影響しないのか。

後藤委員長：笠石は上から置いているだけなので外しても強度には影響しないが、外したところから水が入ってくる心配が若干ある。できれば水の侵入を防止するようなことができれば良い。

→事務局：例えばモルタルを塗ってしまう方法はどうか。

後藤委員長：モルタルを塗ってしまうと復旧するときに困るので、あまりよくない。後のことを考えると何かシートのようなもので養生しておくのがいいのではないか。

小野田委員：木の根の状況だが、木の根は下に入っているのか、上から押さえているのか。

→事務局：両方あるといえる。下に入り込んでいる場所もあるし、上からのところもある。

今回の笠石の撤去と合わせて支障木を伐採する予定である。笠石のレベルが明治期の4つの砲座を連絡する高塁道となっており、コンクリート敷きのはずである。現在はそこに流出した土砂が堆積して、その土の部分に樹木が生えている。下にコンクリートがあるので、根っこは下へ入っていけず横へと成長していると推測している。

前回の委員会で、笠石の部分にアンカーを打って抑える案を検討しているという話をしたが、文化庁に認められなかった。今回の場所だけと約束できるか、とのことで、そのような約束はできないなので、とりあえず撤去の方針とした。

今回の笠石の撤去と合わせて、原因となった樹木のほかに周辺の危険木についても伐採を行う方針である。猿島の樹木については、エコミュージアムとして開園した経緯はあるが、高木化も進み風の影響を受けてしまい危険を感じることも多い。公園部局と協議して適切な管理につとめていきたい。

蒲谷委員：笠石の撤去と合わせて伐採をするということだが、下は園路となっている。工事期間中は通行止めにする想定なのか。

→事務局：現在は、通行止めは想定していない。伐採は特殊伐採で行う予定。作業中に通行を一時的に止める時間は出るかもしれないが、終日通行止めにする想定はない。

## ②倒木の発生について

事務局から概要説明

○委員からの指摘事項

松井委員：(当日の第一発見者である) トンネルの入り口はガイドさんの説明ポイントなので、邪魔にならないよう調査をしていた。ガイドと見学者が移動した直後の倒木だった。樹木管理のレベル設定の際、ガイド説明地点は人が立ち止まっている時間が長いことを加味してレベルあげておくといいのでは。倒木発生時は、自分たちのすぐそばに落ちた。メキメキと音がしたが、動けなかった。

## ③その他(千代ヶ崎のスケジュールについて)

審議事項の②猿島の整備スケジュールとあわせて千代ヶ崎のスケジュール案も作成していた。

事務局から内容説明

○委員からの指摘事項

松井委員：千代ヶ崎に限らないが、監視モニターをつける検討はないか。猿島の倒木の際、島の奥でなにか起きたら怖いと感じた。

→事務局：千代ヶ崎は地下室に入るときにはガイド付きとなっている。ガイドには防犯ブザーを全員に持たせており、何かあれば鳴らすように研修で伝えてある。便益施設から誰かが駆けつける想定。

猿島では現在特に考えていない。管理人が巡回をしており、監視カメラは2か所  
ついているが、常時監視ではなく何か起きたら動画を再生する想定である。

松井委員：高速道路にあるような電話が奥のほうにあったらいいと倒木発生時に思った。海外の  
遺跡だと、緊急時の連絡先看板があちこちに立っている。今回、どこに電話していいのかわか  
らず、管理人の所在もわからなかった。

荒木委員：猿島では、電波は全島で入るのか。

→事務局：電波状況が確実にない場所はある。公園管理の点からいうと全部を監視するとい  
うのは難しい。何か発生したときは現場にいた方にご協力いただくという形をとら  
ざるをえない。いまご提案いただいた電話の話もその必要性などとあわせて検討す  
ることになると思う。

後藤委員長：電話番号の掲示が多いと景観を阻害する可能性もある。今だとスマホを歩きながら  
見たりするので、ガイドページがあればそこに緊急連絡先を入れておくといいのでは。

松井委員：乗船チケットの裏もいいのでは。

県教委：防犯カメラやブザーなどは国の史跡整備の補助金では難しい。最近このような事例が  
あった。整備ではなく維持管理だと判断された。

後藤委員長：木造の建造物が史跡の構成要素になっている場合は、防犯・防火の観点から補助対  
象になる。猿島・千代ヶ崎ような公園系では難しいだろう。

本日、千代ヶ崎砲台跡の今後のスケジュール案が提示されたが、千代ヶ崎砲台跡も猿島と同様  
に優先順位を示しておいた方が良い。

==閉会==